

## 2. 国指定史跡「旧留萌佐賀家漁場」

佐賀家漁場の敷地には、往時のニシン漁場の建物群や干場、船着き場等の施設がよく保存され、ニシン漁場の姿が残されています。

このことで、平成9年(1997)3月11日に国指定史跡「旧留萌佐賀家漁場」として漁場全体が指定されました。



国指定史跡「旧留萌佐賀家漁場」全景

また、佐賀家漁場ぎよば い かは以下にも指定されています。

○北海道遺産いさん

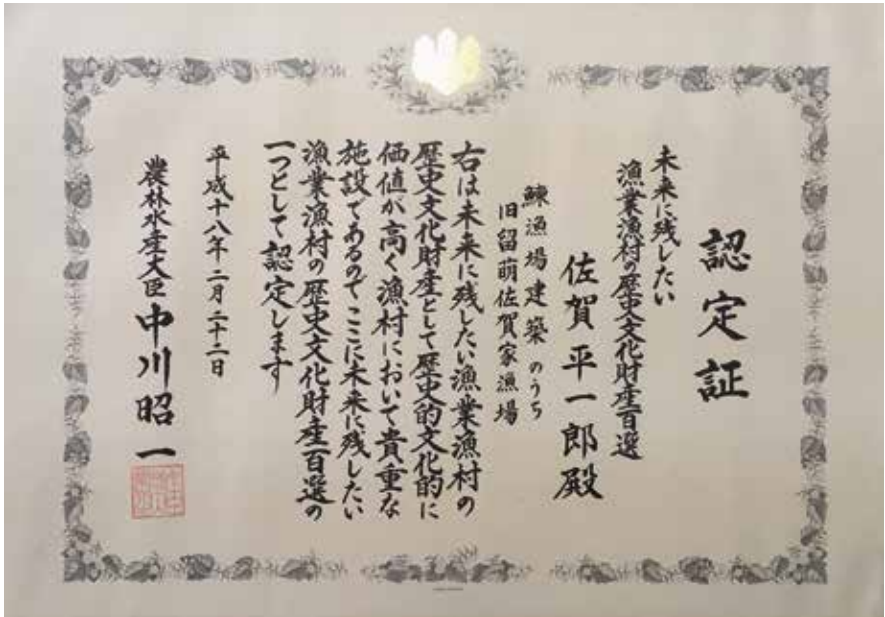
「留萌のニシン街道かいどう（旧佐賀家漁場ぎよば）」

○未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選みらい のこ ぎよぎょうぎよそん れきし ざいさんひやくせん すいさんちよう（水産庁）

「ニシン漁場建築ぎよばけんちく（旧佐賀家漁場ぎよば）」

○近代化産業遺産きんだいかさんぎよういさん けいざいさんぎようしょう（経済産業省）

「留萌地域ちいきのニシン関連遺産かんれんいさん（旧佐賀家漁場ぎよば）」



未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選みらい のこ ぎよぎょうぎよそん れきしぶんかざいさんひやくせん すいさんちよう（水産庁）の認定証にんていしょう

おもや  
①母屋(番屋)

ニシンりょうき漁期りょうしに漁師たちが生活した建物たてもものです。建築けんちくされた年めいかくは明確たてもものではありませんが、建物の構造こうぞうなどから、江戸時代すえの末めいじか明治はじの初め頃ごろと考えられます。

中央ちゆうおうに土間どまがあり、玄関げんかんを入れて右側みぎがわが主人・支配人しはいの住まい、左側ひだりがわが出稼でかせぎに来た漁師りょうしの生活の場所となっています。

構造は2回大きく変更へんこうしており、当初とうしよゆる緩かった屋根やねの勾配こうばい(※86)を途中とちゆうで急勾配きゆうこうばいに直しています。初めは板葺いたぶき(※87)の石置き屋根いしおだったものを、明治末頃めいじすえごろに桁葺まさぶき(※88)に変更へんこうしたためと思われます。

なお、柱組はしらぐみなどは当初とうしよのままです。

※86 勾配こうばい

斜面しやめんや傾かたむきの程度ていど。

※87 板葺いたぶき

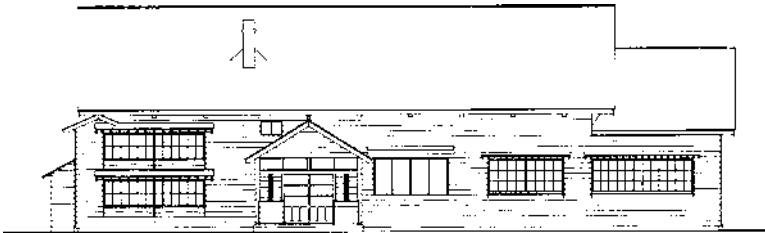
板しを敷つき詰つめた屋根やね。

※88 桁葺まさぶき

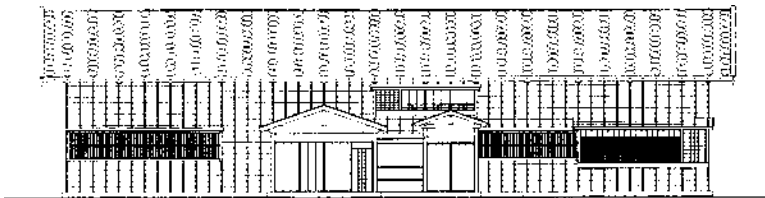
木まさの桁しを敷つき詰つめた屋根やね。



おもや  
母屋 (番屋)



げんざい おもや がいかん  
現在の母屋の外観



とうしょ おもや がいかん  
当初の母屋の外観



りょうし しんだい  
漁師の寝台



おおひろま  
大広間

ろうか  
②廊下

おきあ 沖揚げしたニシンを加工するまで一時保管しておく建  
もの  
物です。

ニシンの群来くきがおさまると、ここからニシンを出して加  
工に入ります。

ニシンりょう漁が終わると船を入れておく倉くらとして使われま  
した。



ろうか  
廊下

### ③トタ倉<sup>くら</sup>

完成したニシン<sup>かす</sup>粕<sup>せいひん</sup>などの製品<sup>ほかん</sup>を保管<sup>たてもの</sup>する建物<sup>たてもの</sup>です。

ネズミ<sup>こ</sup>などが入り込まないようにトタン<sup>は</sup>を張<sup>は</sup>っていたため、「トタ倉<sup>くら</sup>」と呼ばれていました。

また、屋根<sup>や</sup>には福井県<sup>えちぜん</sup>で焼<sup>か</sup>かれた越前瓦<sup>かわら</sup>を使<sup>つか</sup>っています。



トタ倉<sup>くら</sup>



④<sup>ふなくら</sup>舟倉

<sup>りょうき</sup>漁期が終わった後、<sup>りょうき</sup>次の漁期まで<sup>かこ</sup>船を<sup>たても</sup>囲っておく建物  
です。

中には、<sup>りょう</sup>ニシン漁に使われた船が入っていますが、入  
りきらない船の<sup>へさき</sup>舳先が<sup>つ</sup>突き出ています。



<sup>ふなくら</sup>  
舟倉



⑤<sup>あみくら</sup>網倉

けんちくぶつ      もっと      やまがわ      たてもの      あみ  
建築物の中で最も山側にある建物で、網を入れておく  
くら      あみ      む      くさ      くら      ゆかした  
倉です。網が蒸れて腐らないように、倉の床下を風が通  
ぬ      つく  
り抜けるよう造りになっています。

また、<sup>じゅうよう</sup>重要な文書等もこの<sup>くら</sup>倉に入っていました。



あみくら  
網倉

いなりしゃ  
⑥稲荷社

ニシン<sup>ぎよば</sup>漁場には、<sup>かなら</sup>必ず山の上にお<sup>いなり</sup>稲荷さんを<sup>まつ</sup>祀っていました。

ニシンの<sup>たいりょう</sup>大漁を<sup>ねが</sup>願って<sup>た</sup>建てられたもので、ニシン<sup>りょう</sup>漁に<sup>たずさ</sup>携わる人は<sup>しんじん</sup>信心深い(※89)人たちでした。



いなりしゃ  
稲荷社

※89 <sup>しんじん</sup>信心深い

神や<sup>ほとけ</sup>仏を信じる心が<sup>つよ</sup>強いこと。